



ただ学校のお役に立ちたい、それだけで研究やっています

島根県教育センター 所長 村本 愛治
島根県教育センター浜田教育センター長



「おやっ！」と書いていただければ

令和4年5月に、本年度の教育センター主催の教育研究発表会を実施しました。その際のチラシに載せたキャッチコピーが、「ただ学校の・・・」です。これは、単に研究発表会のためのキャッチコピーのみならず、教育センターの果たすべき役割の一つを端的に表現したものです。教育センターの所員がめざしている方向性の表明でもありますので、各種研修会等でのあいさつでも、教育センターの枕詞として使うようにしています。「おやっ！」と書いていただき、教育センターからの発信が皆様に届くことを期待しております。

「啐啄同機」の言葉の重み

さて、私事ですが、本県の教員に採用されて36年が過ぎようとしています。先日、初任の頃にお世話になった校長先生の訃報が届きました。その校長先生が、教職員に対して「啐啄同機（さいたくどうき）」という言葉で、教育者としての心構えをお話になったことがありました。正直言って、その頃の私は経験も浅く、ピンときませんでした。この言葉は、禅語で、「啐」はヒナが卵の殻を破って外に出ようと内側からつつく音で、「啄」は親鳥がヒナの孵化を助けようと外側からつつく音を表しており、その音が同時にひびいているという状況を表現しています。殻を内側と外側から、絶妙のタイミングでつつくことで、ヒナは最適な時期に、安全に誕生することができます。これは学習者と指導者の関係を考える上でとても意義深い言葉だと思います。学ぶ意欲が高まり、必要な支援を求めてきた学習者に対して、必要な支援をしっかりと行うことで、最高の教育効果が期待できます。正に、理想の教育のあ

り方ではないでしょうか。これは、子どもと教員の関係であるばかりでなく、若手教職員とベテラン教職員の関係にも通じるものがあります。若手教職員が増えてきた現在、人材育成の観点からの関わりは今後ますます重要になってきています。今さらながら、あの時の校長先生からのお言葉の重みを感じている今日この頃です。

学び続ける教職員の育成と校内 OJT を支援します

教育センターの基本姿勢は、「学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター」です。教職員の方々が日々の学校での業務を遂行する中で力をつけていただくために、研修はどうあるべきかということを中心に問いながら、教育センターの事業を進めております。教職員研修は、県の定める「教育職員人材育成基本方針」に基づいて、キャリアステージに応じた研修を実施しております。しかしながら、やらされ感のある研修では、効果は薄いものになってしまいます。これらの研修が、より効果を発揮するためにも、求められる資質・能力について一方的に研修を行うのではなく、教職員自身がこれからどんな力をつけて職務にあたりたいのかを引き出しながら、研修を進めていく工夫をしていかなければなりません。受講者の想いに寄り添うことのできる研修をいかに構築できるのか、教育センターの腕の見せ所であると感じております。研修だけでなく、学校への支援も含めて「啐啄同機」をめざします。「ただ学校のお役に立ちたい」という強い想いで、教育センターの全所員が学校を支えてまいりますので、教育センターの事業にどうぞご期待ください。